

KANAGAWA



一般社団法人 神奈川県建築士事務所協会

URL <http://www.j-kana.or.jp/>

E-mail info@j-kana.or.jp

2013年
12月号

VOL.386



オフィシャルウェブサイト (会員ページ) 情報

○会報KANAGAWAをフルカラーにて掲載中

○会員ページへは会員番号でログインしてください



目次

①② 建物探訪

③④ 会員作品紹介

⑤ 中欧旅行紀行（後編）

⑥ モンゴル旅行紀行

⑦ 支部長合同ブロック支部委員会報告

「実務者のための工事監理ガイドラインの運用解説」講習会報告

⑧ 支部だより（県西支部）

表4 事務局便り
編集後記

旧岩崎邸庭園を訪ねて

相模原支部 スタジオアートクリエイト
一級建築士事務所
杉本 勝郎

東京都台東区池之端1丁目にあるこの庭園は、三菱財閥岩崎家の本邸だったものが曲折を経て現在は東京都に移管、平成15年に通年公開されて現在に至っています。重要文化財にも指定され、洋館と撞球室（ビリヤード室）は、鹿鳴館やニコライ堂等を設計したジョサイア・コンドルによるものとあって神事協の諸兄も数多く訪問されているのではないかと推察致します。

明治29年（1925年）に完成した洋館の全体のスタイルや装飾は英国ジャコビアン様式を基軸としつつ、庭園を望む南側は、植民地時代に発

達したコロニアル様式の大きなベランダが特徴的です。所々にはサラセン風（と言うより私たちには唐草模様と言った方が身近ですが）のモチーフをあしらった装飾を見つけることが出来ます。中に入ると圧倒されるような雰囲気があるところにあり岩崎家の個人迎賓館としての役割を担った建物と言う説明も納得できます。2階の客室に貼られている壁紙は、平成の内装改修で復元された「金唐草紙」で、その豪華さに圧倒される思いです。

渡り廊下で和館に移ると、書院造の落ち着いた建物ですが現在は、大広間が一棟残っているのみです。完成当時は550坪の規模で洋館を遥かにしのぐ大きさと言われており、あの藤森照信氏の師である村松貞次郎によれば、全て残っていれば洋館よりも文化的価値が高い建物であったとのこと（残念ですね）。しかし残っている部分を見るだけでも、大河喜十郎という棟梁の感性と技術が伝わってきます。岩崎家の家紋である三菱の紋章がさりげなく、ふすまの引手、欄間の形、あらわしの小屋梁に使われているのを発見すると胸が躍ります。別棟に、撞球室（ビリヤード室）があり山荘風建物となってお

1



外 観



広くて大きなベランダ



サラセン風（唐草模様）

り、また違った雰囲気建物になっています。

建物内部は基本的に撮影禁止の為に写真にて詳細な様子をお目にかけるのは不可能なため、実際に足をお運びください。

最後に、休日の日はボランティアの解説者がいっしょに廻って各部を説明して頂けるのですが、私が廻った方は御年78才のご婦人で非常に博学で明瞭に説明してもらい楽しい時間を過ごすことが出来ました。お聞きしたら専門家でも何でもなくずっと洋品店を経営してきた方だとか。独学で知識を貯めてきたとのお話を聞き頭の下がる思いであったことを付記しておきます。



装飾は統一されている



改修された「金唐革紙」



書院造の和館

施設概要

■洋館

設計 - ジョサイア・コンドル

竣工 - 1896年（明治29年）

構造 - 木造2階建、煉瓦造地下室付、玄関部塔屋付、スレート葺

建築面積 - 531.5㎡

■和館

設計 - 大河喜十郎（推定）

竣工 - 1896年（明治29年）

構造 - 木造、棧瓦及び銅板葺、廊下、茶室、便所付属

建築面積 - 319.6㎡

■撞球室

設計 - ジョサイア・コンドル

竣工 - 1896年（明治29年）頃

構造 - 木造1階建、スレート葺

建築面積 - 138.0㎡

【コラム】

「旧岩崎邸」を訪ねてみよう

「旧岩崎邸」への最寄駅は、東京メトロ千代田線「湯島駅」です。（徒歩3分）

年間を通して様々な催しが開催されているようで、本文でもご紹介の「撞球室」の特別公開やミニコンサートの他、「華族気分で記念撮影♪」という珍しいものまであるようです。

会員建築作品紹介

小さな集合・住宅

川崎支部 株式会社ナカオアトリエ
中尾 実

1010Squareは独立間も無い時期の仕事で、江東区葛西駅近くに建つ6世帯集合住宅です。真ん中にある階段を挟んで、ほぼ南北対照に25㎡程度の住戸が配置されています。ここは液状化が懸念される地盤で、基礎構造に多くの工事費が費やされました。計画当初は4階建てで、オーナーの自宅兼賃貸集合住宅として設計を進めましたが、地鎮祭1週間前に計画がストップしました。その後、専用集合住宅として再スタートし、独立後、初めて竣工した思い出深い建物です。

SHOは2011年竣工の、小田急線生田駅近くで、ナカオアトリエからも近い場所に建つ長屋兼集合住宅です。1階はオーナーのスペースで、2、3階は23㎡前後（居室6帖）の小さな4住戸の規模ですが、3階の2部屋は10㎡程度のロフトスペースがあり、ワンルームマンションと言われている住戸としては魅力的な空間になっています。白い外壁は光触媒塗装を使用しており、予想以上の効果を感じています。

賃貸集合住宅は、運営を含めたプログラムがより明確に設定され、最小限スペースでの機能と、より良い居住性が求められます。そして、個人住宅とは違う公共性も考慮しながらデザインする必要がある社会インフラとなる建築です。そこが私には大変興味いところですよ。

UOH計画は、数社が参加したデザインコンペでナカオアトリエの案が選ばれ、現在進行中の二世帯住宅です。一つの建物の様に提案しましたが、将来最小限の工事で二つの完全に独立した個人住宅になることが求められていました。打合せを進める中で案も変わってきていますが、可能な限りの省エネ技術を取り入れる事も検討しながら進めています。

建築は、環境、敷地特性を最大限生かすことがオリジナリティー溢れる魅力的なデザインを生む鍵ではないかと考えております。そして、小さな建築であっても、地域の活性化に多少なりとも貢献できましたら幸いです。

←1010Square





↑ SHO

↓ UOH 計画



中欧の旅（後編） ～ウィーンからプラハへ～

川崎支部 有限会社上原建築設計事務所
上原 伸一

5日目は、ハプスブルク家の夏の宮殿「シェーンブルン宮殿」と居城「ホーフブルク王宮」を訪ね、その贅が尽くされた空間に圧倒された。女性陣の希望でクリムトの作品を見るために近郊の「ベルヴェデーレ上宮」へ移動する。広い宮殿を全館美術館とし、クリムトの作品も多く展示されている。代表作「接吻」の前で皆しばし興奮。その後、夕景から夜景が変わっていくリンクの街並みを見ながらウィーン最後の夜は更けていった。



ホーフブルク宮殿



チェスケークルムロフ

6日目は、チェコの首都プラハへ。途中、中世の雰囲気が残る世界遺産の町、チェスケークルムロフに立ち寄った。町のシンボル「チェスケークルムロフ城」は領主が変わるごとに増改築を繰り返し、13～18世紀の建築様式が融合したユニークな城。プラハに到着し「市民会館」（別名「スメタナホール」、内装はミュシャが手掛けている。）に併設されている雰囲気あるビアホールでアコーディオンの演奏を聴きながら、親しくなったご夫妻と奥様の誕生日祝いをする夕食となった。

7日目は、マラーストラナ地区、フラツチャニ地区の観光へ。「ストラホフ修道院」の貴重な蔵書が保管されている図書館「哲学の間」「神学の間」や「プラハ城」、「聖ヴィート大聖堂」（ミュシャ作のステンドグラスがある。）を見学。かつて錬金術師が住んでいた黄金小路界隈を散策の後、モルダウ川に架かる名物「カレル橋」に到着した。60年近く掛けて完成した橋には30体の聖人像が並び、最初に建てたと言われるヤン・ネボムチキー像に触ると幸運が宿ると言われている。夜は、映画「アマデウス」の舞台となった「エステート劇場」でのオペラ鑑賞。シューボックススタイルの劇場の客席に座って見上げれば、重なる個



ストラホフ修道院



カレル橋

透明なガラスに包まれた素敵なエレベーターを乗り継ぎ、塔の展望台から旧市街地の眺望を堪能。その後ユダヤ人地区へ移動し、テレジンの子供たちが描いた絵が展示されている「ピнкаスシナゴグ」や旧シナゴグを散策。夜には、ホテルのレストランから「百塔の街プラハ」の景観を楽しみながら、ツアー最後の夕食を楽しんだ。

帰国となる9日目、出発までの自由時間も観光にあてた。プラハの歴史地区は、ユネスコの指定を受け、街そのものが世界遺産という稀有な観光都市であり、その古典的な街並みはいくら見ても飽きることはない。



百塔の街プラハ

スペイン、イタリアなどで見られるような派手な現代建築は少なく、前世紀の建築が街並みを支配し、中欧の魅力を実感できる魅力的な都市ばかりだった。歴史の大切さ、文化の重みを街並みや建物から感じ、日本と西欧の違いを改めて認識した。

わが師芦原義信の著「街並みの美学」には、「地と図」「内部と外部」の関係から街並みや建築空間について述べ、日本と西欧の違いを解説しており、この著書の中で「美しく楽しい印象的な街並みをつくりだす」手法を提案しているが、魅力的な建築空間を始めとした多くの手法が、この魅力的な中欧の都市には当たり前のように存在するのだった。

室客席、中心にシャンデリアが配され華麗に装飾が施された楕円形の天井が目に入る。まるで、中世にタイムスリップしたような心地だった。

8日目は、プラハを歩く。

「火薬塔」、キュビズム建築の「黒い聖母の家」、旧市街広場の「ヤン・フスの像」、「旧市庁舎」、「ティーン教会」を次々に見学。「旧市庁舎」では、

「第17回国際女性建築家会議」 に参加して

横浜支部 株式会社小渡建築設計室
小渡 佳代子

第17回国際女性建築家会議がモンゴルのウランバートルで開催された。「地球温暖化に取り組む女性建築家」をテーマに、私は「江戸の末期に建てられた築100年の伝統木造住宅」として限界耐力法による耐震改修と省エネ化を図った断熱のあれこれ、家庭用発電機、現代生活に合わせた間取り、バリアフリー等をテーマにしたパネルを展示した。また劇団によって、深刻な温暖化は砂漠化、環境問題は「水」の汚染、「今取り組まないと未来は無い」と訴えかける内容の公演もあった。（汚染を警戒してか、ホテルでも歯磨き用にペットボトルの水が用意されていた。）

タイムスケジュールは大らかで、午前、午後、夜の予定が合えばよしとされていた。前日、遊牧生活の太陽と共に生活が始まり、日が沈むころには家畜も帰ってくるというゆったり生活を体験したので、何となく納得してしまった。

国際会議では、その国の建築家の地位がよくわかる。今回は最高の「おもてなし」で迎えてくれた。国会でオープニング、大臣や歴代の市長、男性建築家たちも参加していた。レアメタルの埋蔵量も多く、ウランバートルは建設ラッシュ、国の発展は建築家にかかっていると話される。ただし、10月～5月（-30度）まではコンクリートの打設ができないため、9月に建設工事が集中、街



近代的な高層ビルもある(スカイビル)

は埃で汚れ、車は混雑し動かない。夜は街灯も消え、ホテルで停電に遭遇した。工事現場は足場が無く施工精度は問題。設計事務所は工事監理をしていないとのこと、安全かどうか定かでない。

参加しているうちに、1991年コペンハーゲン大会中、クーデターがあり、モンゴルの女性建築家たちは急遽帰国、その時の緊迫した空気が思い出された。1993年にソ連が撤退、火力発電所は閉鎖され、モンゴルは国全体が凍死（冬は-40度）する危機に陥った。しかし、日本のF首相が火力発

電所を再開させ、橋をかけ、道路を作ってモンゴルを助けてくれたとガイドが説明した。私たちは「Fって誰！」と頭を捻った。（翌日、新聞を調べて海部総理と教えてくれた。）東日本大震災で、日本人がモンゴルに避難してきたら21県ある一つを日本人に提供しようと国会で議論されたとか。しかし「日本人は誰も来なかった」と笑った。



ゲル地区集落

モンゴルの建築は伝統建築「ゲル」とソ連時代の4～5階建のアパートと近代化の高層ビル。今



ハーンのゲル

回は「ゲル」を見学する機会があった。夏涼しく、冬もフェルトのシートに覆われた中でストーブを中心に遊牧民家族が暮らす。人口の40%を占め、遊牧地はだれが住んでもどこに住んでも無料、そして遊牧地と首都ウランバートルの間にゲル集落がある。しかし、

現代的な住宅でも敷地の中にゲルを置いていたり、市街地のビルの屋上にもゲルを見かけた。都会生活が合わなければいつでもゲルを持って遊牧地で暮らすためと聞く。

また、絶対行くべきとの勧めで私たち数人はゲル地区を抜け日本人墓地に向かった。日本との戦争が時系列で整理され日本語訳で小冊子が販売されていた。国際交流は過去の歴史認識を両国で共有することが重要とされた上で、土地の提供を受け、モンゴル抑留中に亡くなった多くの日本人の慰霊碑が2001年日本政府によって建立された。歴代の首相や大臣が毎年慰霊碑に参拝している。そこに歌われていた「故郷」は涙なくして読めなかった。モンゴル国民の80%が仏教徒で神社への参拝も熱心だ。何といてもジンギスハーンの力は大きく、モンゴルの象徴である。

日本での国際会議は会議も食事も電車も時間どおり、数分の遅れはお詫びのアナウンスがある。パーフェクトという人、笑う人。色々な国の常識を経験できる貴重な会議なのである。

支部長合同ブロック支部委員会報告（川崎ブロック開催）

川崎支部 おんだ建築事務所
恩田 耕爾

支部長合同ブロック支部委員会が11月19日に川崎市内で開催され、小職は川崎支部会員として、また本部広報情報委員として懇親会から参加となりました。

懇親会は、新百合ヶ丘に出来た昭和音楽大学南校舎のイタリアンレストラン「イルカンピエッロ」で開催されました。今回は川崎支部が主催で参加者は20名ほどの集まりでした。当方、箱根からの帰路の時間がかかり多少遅刻での参加でした。当日は、白井副会長の計らいで昭和音楽大学の丸尾有香さんのボーカルとピアノ演奏家コース卒業の三上彩花さんがピアノ伴奏され、盛り上がりました。アベマリア、オーソレミオ、ハバネラ等を会場に響き渡るように歌われました。

トピックスとして相模原支部の西倉支部長と歌手の丸尾有香さんが、たまたまお誕生日とい

うことでお二方に花束が贈呈されご満悦の様子で、和やかな雰囲気になりました。

その後、近くで二次会も予定されていたようですが皆さん大分ワインを飲まれ、大いに盛り上がったと思われます。クリスマスも近くイルミネーションで輝く美しい夜を皆さん楽しめました。



歌とピアノの調べ

7

「実務者のための工事監理ガイドラインの運用解説講習会」を受講して

相模原支部 株式会社K A Z設計・工房
竹尾 秀一

11月8日に開催された「実務者のための工事監理ガイドラインの運用解説講習会」はただひたすら正面を見つめるDVDによる映像講習会でした。

「業務報酬基準」に併せて工事監理の確認対象工事に応じた合理的方法例示する「工事監理ガイドライン」に基づき、今回講習のテキスト「実務者のための工事監理ガイドラインの手引き」は具体的なポイントが記載され適切な利用ができ便利なものです。会場の環境はプロジェクター映像で説明がされ皆さんただ画面を見ているだけ、テキストを見ようにも照明が暗くチェックがやりにくいなどの支障がありました(大型ディスプレイなら良かったのに…)

講習内容は①ガイドライン②法的位置づけ③確認ポイント(非木造-建築・非木造-設備・木造)の実務を鑑賞、DVD構成であるので無駄がなく

まとまっており淡々と進んでますが講習内容より文章を読んでいるだけのよう表現力が物足りなく感じます。講習会というよりもDVD講座を受けている感覚になり、若い時の資格取得の試験勉強時代を思い出すようでした。

確認ポイントの範囲は広く半日のポイント講習では、主だった工種だけであり物足りなく、4時間の長時間でしたが短く感じました。関わっている実務範囲はもっと深く知りたいし、経験のない分野では全体を網羅して知りたいと思えたので、良い面もあったように思います

これからは知識、情報共に時間短縮で多くを取得するためにDVD講習ならば今回の会場利用でなくとも個人の場所で受けられれば、交通の時間、個人の利用時間帯が集約できますし、そのような講習会を望んでいます。

支部だより 木造住宅、耐震診断等研修会を終えて

県西支部 (有) 孝創建築事務所
勝俣 桂樹

今回の耐震研修は、昨年3日間おこなった研修(改正になった《木造住宅の耐震診断と補強方法》)のつづきであり、耐震調査から耐震診断、補強計画の事例実例を見ながら講師の方々が説明し、評点の出し方や、耐震補強金具等の説明まで示しながらでしたので、我々実務者目線の説明であり、非常に興味深いものでした。その中で、評点の出し方については細かいところまで説明があり非常に勉強になりました。

参加者は、県西支部耐震部会員をはじめ、各市町村の職員、興味のある建築士等参加者はさまざまでした。



川崎支部講師の方々



参加者の様子

私の所属する県西支部では、基本1人の建築士が1現場を担当し、診断から設計・監理まで担当します。もちろん、1人立ちをするまでには、各市町村の無料耐震診断会に参加しながら勉強し、その後、会員が受注した耐震診断業務に付き添わせていただき、実務を学びます。その後、実際自分が1人で担当する現場は、計算結果を耐震部会長に提出するようになっていきます。

講師の方々が所属する川崎支部はパートナーを組み、2人以上の建築士の目によって耐震診断等の業務をおこない、各現場を担当することで正確性を保つシステムになっていることに驚かされました。

このシステムができる理由としては各市町村の補助金の違いが大きいのではないかと思います。小田原市の補助金に対し、川崎市の補助金は4倍ほどとなっていました。また、1階部分、2階部分に分け、段階的に工事をする場合にも補助金が出るようになっているので、金銭的にも工事がしやすい環境であると思います。

今年、耐震診断をする機会があり、当時は手探りで、青い本と黄色い本(2012年改訂版木造住宅の耐震診断と補強方法の解説本)を見ながら耐震診断をおこないました。今回の研修で購入した研修資料本(耐震診断マニュアル アムハード小西(株)発行)は耐震補強事例が多く、写真や耐震雑学が随所にあるので見やすいため、耐震診断等おこなう方にはオススメです。

実務では経験や勘、診断評点計算はソフトまかせのところがあり、構造については正直疎かにしているところがありました。構造についてはもう一度、再勉強しようと思いついた研修会となりました。

依頼者の命や資産を守ることが目的であるので、建築士1人の考えでなく、さまざまな意見を聞けるような環境や、チェックし合える仲間が周りにいることが大切であると思いました。(県西支部の先輩は皆やさしく実務経験が豊富なので助かっています)

最後に講師を務めて下さった講師の方々、ありがとうございました。大変聞きやすい内容であり、今後の実務に生きる研修会となりました。今後ともどうぞよろしくお願い致します。



筋交い

会員異動報告

入会

横浜支部

和泉デザインスタジオ一級建築士事務所 和泉 康平
〒231-0033 横浜市中区長者町4-11-1-601
TEL.045-341-0882 FAX.045-341-0892

e b i 建築設計事務所一級建築士事務所 海老塚 剛
〒241-0014 横浜市旭区市沢町371-7
TEL.045-479-2039 FAX.045-479-2014

川崎支部

スタジオMK一級建築士事務所 川畑 耕平
〒213-0033 川崎市高津区下作延4-14-1-601
TEL.080-6643-4690 FAX.044-866-3038

退会

県西支部

株式会社田中組一級建築士事務所 渡邊 健二

変更

横浜支部

株式会社白川設計 白川 正孝
(所在地・TEL・FAX変更)
〒231-0012 横浜市中区相生町6-113 桜木町ANビル4階
TEL.045-319-4441 FAX.045-319-4442

株式会社アルコン一級建築士事務所 藤田 勝典
(所在地変更)
〒222-0033 横浜市港北区新横浜2-17-19 HF新横浜ビルディング2階

株式会社耐震防災一級建築士事務所 佐藤 智洋
青葉地区
(地区変更)
西地区

オザワデザイン一級建築士事務所 尾沢 俊一
(事務所名変更)
株式会社オザワデザイン一級建築士事務所

川崎支部

一般社団法人川崎市建築設計事務所協会一級建築士事務所 田辺真一郎
(所在地変更)
〒210-0002 川崎市川崎区榎町1-1 川崎センタービル403

休会

横浜支部

環システム株式会社
期間 平成25年10月1日～平成26年9月30日

【お知らせ】…新体制により、誌面構成の見直しを行っております。

本誌掲載記事の内容は執筆者本人の見解において記述・掲載をしております。
時事協としての見解ではございませんのでご了承下さい。

【今年度新規発足！法制委員会からのお知らせ】

現在、法制委員会では「木造既存不適格について」を議題として活動しています。今後、省エネルギー・環境関係法令にまで範囲を広げ、また平成26年度の講習会開催に向けて準備を進めています。そこで会員の皆様から、木造既存不適格、省エネ、環境関係法令等での興味のある事や、他の関心ごと何でも構いませんのでご意見・ご要望等を募集いたしますので、ぜひご協力ください。
(宛先 事務局担当 高井 takai@j-kana.or.jp)

Table with columns: 支部名, 平成25年3月末日, 現在, 入会者, 退会者, 増減. Lists membership changes for various branches.

※退会報告等の状況により会員数は常に変動しております。

12月の行事予定

Table of monthly activities including: 12月2日 管理建築士講習 会場:神事協会議室, 3日 広報情報委員会, etc.

編集後記

何気なく普段右手と左足、左手と右足を同時に出して歩いていますが、先日ある地元の講演会で、この歩き方は160年前の日本の近代化の幕開け期に（明治初期）西洋の軍事教訓としての「行進」を取り入れてからだと聞きました。それ以前は「ナンバ歩き」といい、同じ側の手と足を動かして歩いていたそうです。現在でも日本舞踊、相撲、柔道などにその面影が見られるようです。

広報担当3期目、新メンバーとともに、一般社団法人の広報として、新しい風を徐々に取り入れて行きたいと思います。来年もどうかよろしく願います。

良いお年を。 (横須賀支部 小泉 厚)

かながわ 平成25年12月号 (通号386号)

発行 平成25年12月1日 (毎月1日発行)
発行人 小林 忠志
発行所 一般社団法人 神奈川県建築士事務所協会
〒231-0032 横浜市中区不老町3-12
第3不二ビル2F
TEL. 045-228-0755
FAX. 045-212-3807
印刷所 株式会社 柏苑社

- 担当副会長 芝 京子
広報情報委員長 白川 正孝
広報情報副委員長 宮寺 透雄
広報情報委員 森 雄治
棚橋 由佳
坪井 教一
坂本 歩美
小泉 厚
恩田 耕爾
新倉 良一
杉本 勝郎